

# 委員審査コメント

令和4年7月

個別評価シート

第2回会議分(7月8日(金)16時15分～17時45分(ハイブリッド(委員長、委員長代理、樋口委員は対面参加)))

評価基準	評価コメント
②IR区域全体の建築物のデザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 建築物の外観及び内装の方針については、大阪IRのコンセプト「結びの水都」を具現化するという観点から、4つのテーマに基づき、施設配置が検討されている。また、空間全体の具現化に当たっては水やみどりの自然の景色を随所に取り入れることや、各建築物の内装については施設内部での体験価値を最大化する個別のストーリーを設定しカラースキーム・材料等を採用することや先端技術の導入等が計画されており、先進的で他には見られない魅力を有するための取組について工夫がみられる。また、周辺との調和の方針については、水運に支えられてきた大阪の歴史的背景を踏まえつつ、水とみどりを身近に感じられる空間形成に向け配慮されている。</li> <li>• 一方で、建築物のデザインについては、添付資料から判断する限り、大阪IRのコンセプト「結びの水都」を個々の建築物にどのように取り入れ、また「水都」を感じさせる水のつながりを持たせているのか、十分読み取ることが困難であったため、申請者に対し考え方を確認したい。</li> </ul>

個別評価シート

第2回会議分(7月8日(金)16時15分～17時45分(ハイブリッド(委員長、委員長代理、樋口委員は対面参加)))

評価基準	評価コメント
<p>⑧魅力増進施設</p> <p>①コンテンツ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 魅力増進施設は、劇場、伝統文化等の展示場、飲食施設、工芸体験・物販施設、美術館の5施設から構成されており、日本の魅力発信に向け、多様なコンテンツでの発信が期待される。</li> <li>• コンテンツについて、そこでしか体験できないものという観点からは、             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャパン・フードパビリオンでは、「大阪・関西の奥深い食文化の魅力を伝える」</li> <li>・関西ジャパンハウスでは、「大阪・関西にゆかりが深い商品を取り扱う。」</li> </ul>             といった記載があり、一定の配慮が見受けられる。一方で、魅力増進施設として、地域(大阪・関西)の魅力発信と、日本全体の魅力発信のバランスをどのように考えているのか、確認したい。           </li> <li>• 魅力増進施設の各施設について、価格帯とその設定に関する現時点の考え方を確認したい。 (ガーデンシアター、三道体験スタジオ、関西ジャパンハウス、関西アート&amp;カルチャーミュージアムは入館料等、ジャパン・フードパビリオンは飲食料金等)</li> <li>• コンテンツの提供方法について、             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガーデンシアターでは、「テクノロジーを駆使した現代的かつ芸術的な表現手法を組み入れた、これまでにない革新的な舞台芸術作品の創出をめざす。」</li> <li>・三道体験スタジオでは、「日本の伝統的な芸道を、先進的なテクノロジー等を用いた演出によって、五感を通じた体験として提供する。」</li> </ul>             といった最先端のテクノロジーを用いる旨の記述があり工夫がみられるが、どのようなイメージのものか、もう少し内容について確認したい。           </li> <li>• ガーデンシアターについて、座席数やその設定に関する現時点の考え方を確認したい。また、コンテンツ内容について、「伝統芸能を身近に体験できるプログラムや、伝統的な太鼓芸能集団と世界的に人気を博すパフォーマンス集団によるコラボレーション・ショー等の公演を企画する」とあるが、これら公演予定団体の知名度や実績が不明瞭な点もあり、現時点で想定される範囲内で構わないので想定されるコンテンツを確認したい。</li> <li>• 関西ジャパンハウスの訴求力の高さについて、「過去の工芸関連のイベントでは10日間で5万人以上が来場」という記載があるが、内容が不明瞭なため確認が必要。</li> </ul>

個別評価シート

第2回会議分(7月8日(金)16時15分～17時45分(ハイブリッド(委員長、委員長代理、樋口委員は対面参加)))

評価基準	評価コメント
<p>⑧魅力増進施設</p> <p>②発信方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 魅力増進施設の5施設(劇場、伝統文化等の展示場、飲食施設、工芸体験・物販施設、美術館)において、鑑賞、体験、飲食、販売など、発信方法に多様性が見受けられる。</li> <li>• 各施設のレポート促進のための取組として、             <ul style="list-style-type: none"> <li>・三道体験スタジオでは、「季節の移り変わりに合わせて演出内容の更新を行い、プログラムや体験を変化させる。」</li> <li>・関西ジャパンハウスでは、「定期的に工房に滞在する職人の入替えを行う。」</li> </ul>             など、何度もレポートしたいと思えるような工夫が見受けられる。           </li> <li>• 各施設におけるイベント等について、             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガーデンシアターでは、「幅広い分野のアーティストやクリエイターとのコラボレーションによって、伝統芸能に新たな表現手法を取り入れた革新的なコンテンツや没入感の高いショー、体験型のイベント等、誰もが楽しむことができる多彩なプログラムを提供する。」</li> <li>・三道体験スタジオでは、「特別企画として、各芸道の専門家等と連携し、ライブ・パフォーマンスや参加型のイベント開催を検討する。」</li> <li>・ジャパン・フードパビリオンでは、「食べ比べやオリジナルの食器づくり等の多様な食文化体験プログラムを提供する。」</li> <li>・関西ジャパンハウスでは、「・・・、工芸品の制作過程見学及び制作体験プログラム等、日本の伝統的な工芸文化の魅力に触れる機会を提供する。」</li> <li>・関西アート&amp;カルチャーミュージアムでは、「国内外の文化機関と連携し、企画展やラーニング・プログラム等、幅広い文化体験の機会を提供する。」</li> </ul>             という記載が見受けられるが、各内容について、どのようなイメージのものか、もう少し内容について確認したい。また、それぞれのイベント等の開催頻度に関する現時点の考え方を確認したい。           </li> </ul>

個別評価シート

第2回会議分(7月8日(金)16時15分～17時45分(ハイブリッド(委員長、委員長代理、樋口委員は対面参加)))

評価基準	評価コメント
<p>⑧魅力増進施設</p> <p>③体制及びノウハウ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 業務の実施体制及び実施方法について、「IR事業者に、魅力増進、MICE、飲食、物販等の中核機能ごとに、運営を担当する部署を設置するとともに、各部署の中にも魅力増進施設担当部署を設置する。」と記載があり、魅力増進施設以外の施設においても、魅力増進施設の集客等に向け注力している様子が見えるが、施設間連携をどのように考えているか、現時点での考えを確認したい。</li> <li>• 提供コンテンツの調達方法について、             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガーデンシアターでは、「伝統芸能をはじめとした舞台芸術における専門的な知見及び実績のある複数のパートナーとの連携」</li> <li>・三道体験スタジオでは、「各芸道の専門家から助言を受けつつ、類似イベントにおいて累計100万人以上の動員数を誇り、豊富なイベント開催実績を有する協力企業等とともにコンテンツの企画・制作に取り組む。」</li> <li>・ジャパン・フードパビリオンでは、「有名シェフや、「食」に関わる大阪・関西の企業・団体と連携」</li> <li>・関西ジャパンハウスでは、「協力企業がこれまでに築き上げてきた職人との関係性をもとに全国の職人のネットワーク化を図り、職人を工房に誘致する体制を整備」</li> <li>・関西アート&amp;カルチャーミュージアムでは、「国内外のアーティスト及び文化機関等と連携」</li> </ul> </li> </ul> <p>という記載があり、一定の組織体制・実績のある者と連携して取り組む姿勢が見受けられるが、どのような者との連携を考えているか、現時点での考えを確認したい。(特に、三道体験スタジオについては、どのようなコンテンツになるのか内容が不明瞭なため、累計100万人以上の動員数である類似イベントの詳細(主催者等の実施主体を含む)を確認したい。)</p>

(誤)魅力増進施設担当部署⇒(正)魅力増進施設担当

個別評価シート

第2回会議分(7月8日(金)16時15分～17時45分(ハイブリッド(委員長、委員長代理、樋口委員は対面参加)))

評価基準	評価コメント
<p>⑧魅力増進施設</p> <p>①コンテンツ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域とともに「日本の魅力の創造・発信」に取り組む計画とされており、日本の魅力を発信するため、体験プログラムの提供や、先進的なテクノロジー等を用いた演出、工芸品の販売など、幅広い方法が計画されている。</li> <li>• コンシェルジュ機能を活用したチケット手配や、大阪・関西各地へつながる交通機能等を有する送客施設を効果的に活用するといった記述が見受けられるが、魅力増進施設と送客施設の連携の考え方について十分な記載が見受けられないため、確認が必要。</li> <li>• 施設によってターゲットとする客層が分けられており、日本文化に興味を持つ訪日外国人旅行者、アジアや欧米の富裕層をはじめとしたVIP、国内のファミリー層など、誰でも楽しめる施設とする方針が見受けられる。</li> <li>• 他方、訴求力の高さに関する客観的説明に用いられている観光庁「訪日外国人消費動向調査」に関して、日本食、日本の歴史・伝統文化体験、博物館・美術館など、来訪者の国籍によってコンテンツの関心が異なると考えられるが、施設構成に照らした訪日外国人旅行者のターゲットの全体像について伺いたい。</li> <li>• ジャパンフードパビリオンについて、高級レストランからカジュアルなフードコートまでの多様性がうかがえるが、高級レストランへのVIP動線の確保や、各種のお店の利用者の動線の混在など、動線に係る考え方を確認したい。</li> </ul>

個別評価シート

第2回会議分(7月8日(金)16時15分～17時45分(ハイブリッド(委員長、委員長代理、樋口委員は対面参加)))

評価基準	評価コメント
<p>⑧魅力増進施設</p> <p>②発信方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 発信方法に関し、三道体験スタジオでは伝統的な芸道を高精細な映像技術や立体音響技術等を用いて誰もが楽しめるコンテンツにする、関西アート&amp;カルチャーミュージアムでは展示作品の多言語対応や、先進技術を活用し、国籍や世代を超えてその魅力を体験することができる展示など、誰もが楽しめる内容への前向きな姿勢が見受けられる。その上で、現段階で想定されている国内来訪者向けの発信方法と、訪日外国人旅行者向けの発信方法について伺いたい。</li> <li>• ジャパン・フードパビリオンでは、「大阪産(もん)」をはじめとした食材や調理方法等のフードツーリズム推進が掲げられており、地域振興へ向けた配慮が見受けられる。</li> </ul>

個別評価シート

第2回会議分(7月8日(金)16時15分～17時45分(ハイブリッド(委員長、委員長代理、委員長代理は対面参加)))

評価基準	評価コメント
<p>⑧魅力増進施設</p> <p>③体制及びノウハウ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li> <p>・ ガーデンシアターでは、「米国やマカオで複数のシアター運営実績を有するMGMのノウハウを活用し、開業準備期間を通して、施設運営に携わるメンバーにこれらの知見の定着を図る。」、関西アート&amp;カルチャーミュージアムでは、「ラスベガスでアートギャラリーを運営するMGMのアート&amp;カルチャー部門が有するネットワーク等を活用し、学芸員及び日本の芸術・文化に造詣が深い人材を国内外から確保する。」など、MGMの実績を活かした取組が見受けられる。</p> <p>他方、「学芸員及び日本の芸術・文化に造詣が深い人材」で、かつ、実際に集客可能な企画をして実施できる人の確保は容易ではないと見受けられるが、このような人材をどのように確保するのか方針を伺いたい。</p> </li> <li> <p>・ 例えば、ジャパン・フードパビリオンでは調理師学校や地域の複数の専門学校と連携し、長期的な観点で、人材発掘と育成を行う計画とするなど、施設全体として、長期的な人材育成に向けた前向きな姿勢が見受けられる。</p> </li> <li> <p>・ 「IR事業者に、魅力増進、MICE、飲食、物販等の中核機能ごとに、運営を担当する部署を設置するとともに、各部署の中にも魅力増進施設担当を設置する。魅力増進施設の運営を担当する部署と連携し、スムーズかつ効率的な運営を行う。」との記載があるが、魅力増進施設とMICEの誘致・開催とをどのように連携させるのか現段階での想定を伺いたい。</p> </li> </ul>



個別評価シート

第2回会議分(7月8日(金)16時15分～17時45分(ハイブリッド(委員長、委員長代理、樋口委員は対面参加)))

評価基準	評価コメント
<p>⑨送客施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ショーケース機能について、季節ごとや旬のイベント等にあわせてコンテンツの入替えや更新を行うなど、何度来訪しても楽しめるような工夫が計画から読み取れた。</li> <li>• ショーケースの提供コンテンツは、各地の自治体・DMO等から幅広く情報収集を行うとされていることや、送客先の観光地との連携は、旅行会社や交通事業者のネットワークを活かし広範な連絡体制を構築するとされていることから、全国への送客に向けた前向きな姿勢がうかがえる。</li> <li>• コンシェルジュ機能について、対面でサービスを提供するコンシェルジュが来訪者の潜在的なニーズを満たすような観光コンテンツやツアー等を提案するとされているが、コンシェルジュの人員は旅行会社への業務委託等により確保すると記載があるため、IRへの来訪者を各地の魅力ある観光地に送り出すために十分な機能であるか、申請者に確認する必要がある。</li> <li>• 関西ツーリズムセンターに近接し整備するバスターミナルやフェリーターミナルについて、大阪IRに来訪者した者を近距離に輸送する観点のみならず全国に送客する観点から検討されているか、運営の考え方について、申請者に確認したい。</li> <li>• 送客施設の運営統括部門は、実績・ノウハウを有したMGM及びオリックスからの出向者並びに観光業における経験が豊富な旅行会社からの出向者等が担うとされているが、MGM及びオリックスが送客施設の運営実績・ノウハウを十分有していると言えるのか、申請者に確認する必要がある。</li> </ul>

個別評価シート

第2回会議分(7月8日(金)16時15分～17時45分(ハイブリッド(委員長、委員長代理、樋口委員は対面参加)))

評価基準	評価コメント
⑨送客施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ショーケース機能の提供コンテンツについて、各地の自治体・DMO等から幅広く情報収集を行い、映像等の形式にカスタマイズし発信方法を工夫して提供するとされているが、この内容について、関西ツーリズムセンターの内観において図示されている映像との関係を含め、申請者に確認が必要。</li> <li>• 多言語対応の方針について、文字表記及び対人による多言語サービスの提供や、ピクトグラムを表示など、一定の配慮がみられた。</li> <li>• 送客先の観光地及び国内外の事業者との連携として、全国の自治体やDMO等から受け取った観光情報の発信、観光関係者等が直接情報発信できる場を送客施設で提供するといった取組が記載されており、一定の配慮がみられる。</li> <li>• IR施設のターゲットに対して、旅前も含めて、どのようなタイミングと方法で、送客施設を利用できることをアピールしていくのかについて伺いたい。</li> <li>• 従業員の人材育成については、段階別の研修プログラムや実地研修、インターシップによる各地の観光業に関わる人材の受入れといった記述があり、人材育成に前向きに取り組む姿勢がうかがえる。</li> </ul>

個別評価シート

第2回会議分(7月8日(金)16時15分～17時45分(ハイブリッド(委員長、委員長代理、樋口委員は対面参加)))

評価基準	評価コメント
<p>⑪レストラン等の付帯サービス</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 宿泊施設のレストランの予算水準については、単価が約16,000円のレストランから単価が約1,000円の軽食やカフェまで幅広い価格帯の飲食施設があり、ラウンジやバー等の夜間利用に適した施設もあり、シンガポールのIR施設に比較しても、概ね同様の予算水準の多様なラインナップ構成となっているが、和・洋・中などのジャンルについては記述がなく、どのようなジャンルを想定されているのか確認したい。</li> <li>• 「国内外の有名シェフやレストランと連携し、世界的に高い評価を得られるような飲食施設を展開し、独自性と創造性のある高付加価値な「食」の体験を提供する」とあるが、どのような者との連携を想定しているのか確認したい。</li> <li>• 宿泊施設のその他付帯サービスのうち、MGM大阪が提供するコンサバトリーに係るサービスの質の高さについては、「MGMがラスベガスで運営するコンサバトリーは1日に約1万5,000人が訪れる人気施設」であることを客観的根拠として挙げているが、どのような展示を考えているのか確認したい。</li> <li>• MGMヴィラの付帯サービスのうち、宿泊ゲストのみが利用できる完全なプライベート空間を提供する専用ロビーについて、どのような構成の施設でどのような運用を想定しているのか、現時点の考え方を伺いたい。</li> </ul>

個別評価シート

第2回会議分(7月8日(金)16時15分～17時45分(ハイブリッド(委員長、委員長代理、樋口委員は対面参加)))

評価基準	評価コメント
⑪レストラン等の付帯サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MICE参加者の利用者ニーズへの対応に関し、区域整備計画において「国内外のパートナーとの連携を通じて大阪IRを世界有数の「食」のデスティネーションへと昇華させることに取り組み、MICE参加者の長期滞在を促進するとともに再訪率の向上を図る」との記載があるが、どのようなパートナーとの連携を想定することで、MICE参加者の長期滞在の促進や再訪率の向上が図られるのか要確認。</li> <li>• VIP向け最高級ホテルであるMGM大阪ヴィラにおいては、飲食サービスについて、「ルームサービス用のキッチンを配置の上、客室において、多様な飲食ニーズを満たす高品質なルームサービスを提供する」こと、その他付帯サービスについて、プライベートプール・プライベートガーデンを設け、「VIPゲストのあらゆるニーズに応えるため専属スタッフ(バトラー)が待機し、大阪IRならではの最高のおもてなしを提供」という記載があり、ハイエンドの富裕層に対する配慮が見られる。</li> </ul>

個別評価シート

第2回会議分(7月8日(金)16時15分～17時45分(ハイブリッド(委員長、委員長代理、樋口委員は対面参加)))

評価基準	評価コメント
<p>⑫宿泊施設のサービス内容・業務の実施体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• MGM大阪ヴィラの運営体制に関し、「客室ごとに専属スタッフ(バトラー)を配置し、ゲストひとりひとりの嗜好や行動パターンに合わせたサービスをいつでも提供できる体制を構築する」とあり、ハイエンドの富裕層に対する配慮がみられる。</li> <li>• 人材育成の方針に関し、「従業員の一部は、開業前からMGM及びオリックスグループが運営するホテル等施設において実際に働きながらトレーニングを行う」ことが計画されており、MGM及びオリックスが宿泊体制について十分な運営実績を有していることを踏まえれば、宿泊施設の運営に必要な体制を備えていることがうかがえる。</li> </ul>

個別評価シート

第2回会議分(7月8日(金)16時15分～17時45分(ハイブリッド(委員長、委員長代理、樋口委員は対面参加)))

評価基準	評価コメント
<p>⑫宿泊施設のサービス内容・業務の実施体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全宿泊施設の運営については、宿泊施設の十分な運営実績が有するMGMやオリックスを中核株主に持つIR事業者の直営であり、その上で、「IR事業者内に宿泊部門を統括する責任者を配置した上で、各宿泊施設においても、各宿泊施設の運営を統括するゼネラルマネージャーを配置する」ことが計画されており、利用者に対してきめ細やかで充実したサービスを提供する体制が構築されていることがうかがえる。</li> <li>人材確保の方針について、「開業の約2年前から主要幹部を中心に採用活動を開始し、早期に部門体制を構築する」ことが提案されており、早期の段階から宿泊施設の運営に必要な体制を備えようとする前向きな姿勢がうかがえるが、新型コロナウイルス感染症の影響で宿泊業界における人手不足が指摘される中、ポストコロナ時代を見据えた主要幹部等の人材確保について、どのように考えているか要確認。</li> </ul>

個別評価シート

第2回会議分(7月8日(金)16時15分～17時45分(ハイブリッド(委員長、委員長代理、樋口委員は対面参加)))

評価基準	評価コメント
<p>⑭カジノ施設のデザイン・配置</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• カジノ施設の内観(添付資料)において、天井の一部から太陽光がカジノ施設内に射し込むイメージが示されており、開放的な空間を創出する工夫が見られ、諸外国のカジノ施設ではあまり見られない斬新なデザインとなっていると考えられる。</li> <li>• カジノ施設が、宿泊施設のMGM大阪と一体化した低層建物の内部に位置することから、外部から視認されることがなく、カジノを利用しないIR来訪者への工夫が見受けられる。また、低層建物内においても、目立たない配置とする方針であり、配慮がみられる。</li> <li>• カジノ施設の設置についてはMGMのカジノ開発・運営の実績とノウハウを最大限活用とされており、また、カジノ内の設計及びデザインは、MGMがカジノ運営において培ってきた経験を活かすとされているが、カジノ施設のデザイン・配置において、カジノを利用しないIR利用者への配慮を含め、どのようなMGMのノウハウが活かされているのか、考え方を確認したい。</li> </ul>

個別評価シート

第2回会議分(7月8日(金)16時15分～17時45分(ハイブリッド(委員長、委員長代理、樋口委員は対面参加)))

評価基準	評価コメント
<p>⑭カジノ施設のデザイン・配置</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• カジノ施設のデザインについて、添付資料から判断する限り、外観については周辺と調和し外から目立たない形になっておりカジノ施設を利用しない方への配慮がみられるが、内装については諸外国のカジノ施設に比べて控え目なイメージ図であったことから計画上のカジノ施設来訪者が視覚的に際立った非日常空間を楽しむことができるデザインとなっているか、申請者に対し考え方を確認したい。</li> <li>• カジノ施設の配置について、外部から目立たないところに配置されている。また、周辺動線についてもカジノ施設の通過しなくても他の施設の行き来が可能であり、エントランスの本人確認区画をスクリーン壁によって隔て外部からは施設内が見えないようにされており、カジノ施設を利用しないIR利用者への配慮がみられる。</li> </ul>



個別評価シート

第2回会議分(7月8日(金)16時15分～17時45分(ハイブリッド(委員長、委員長代理、樋口委員は対面参加)))

評価基準	評価コメント
<p>②③地域との良好な関係構築のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政(大阪府・市)においては、区域整備計画の作成に当たり、公聴会の開催(計4回、40人が公述)のほか、パブリックコメント(537人、意見1,497件)を実施し、MICE推進に向けた体制強化や、依存防止の観点からのカジノ施設での酒類提供のマニュアル整備などの意見を計画へ反映したことが見受けられた。他方で、長期的かつ継続的な取組としては、「大阪府・市は、引き続き、府民に向けた情報発信に取り組むとともに、大阪・関西の持続的な成長に向け、地域経済の振興及び地域社会への貢献に関する取組みをはじめ、MICEの誘致・推進、ギャンブル等依存症対策、治安・地域風俗環境対策等について、経済界、IR事業者、その他の関係機関等と緊密な連携体制の構築を図る。」と記載されているのみであり、どのような情報発信を行い、地域住民にどのような理解を求めていくのか、方針について確認が必要。</li> <li>IR事業者の長期的かつ継続的な取組として、地元からの調達をとおして地域経済の振興に寄与することや、産官学民の関係者と連携しMICE開催やイベント誘致、教育機関等と連携した人材育成、IRから地域に送客する「食」やクラフトツーリズム等、地域社会に貢献する取組みを行うといった記述があり、事業者としての一定の対応が見受けられる。</li> </ul>

個別評価シート

第2回会議分(7月8日(金)16時15分～17時45分(ハイブリッド(委員長、委員長代理、樋口委員は対面参加)))

評価基準	評価コメント
<p>④カジノ事業の収益の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• カジノ事業の収益の活用方針について、「長期的・継続的にIR事業内容の向上とIR区域の魅力向上に取り組むため、大阪IR全体及び各IR施設の機能及び魅力の維持・向上に必要となる投資を適切に行う。」とされており、カジノ事業収益の公益還元について、一過性の取組とせず、長期的・継続的に取り組む姿勢がうかがえる。</li> <li>• カジノ事業の収益の活用について、開業3年目では年間150億円程度とされており、IR事業の事業内容の向上として、魅力増進施設における定期的なコンテンツ入替え、宿泊施設において季節ごとにテーマを変えた展示物やイベント等を実施するなど、魅力向上に向けた継続的な取組が検討されている。また、災害時等緊急時において、大阪IR区域外の避難者に対しても安全に避難できる場所を提供する経費にカジノ事業の収益を充てる計画となっており、IR来訪者以外の者への配慮が見受けられる。</li> </ul>

個別評価シート

第2回会議分(7月8日(金)16時15分～17時45分(ハイブリッド(委員長、委員長代理、樋口委員は対面参加)))

評価基準	評価コメント
<p>④カジノ事業の収益の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大阪IR開業後のカジノ収益の活用の金額は、開業3年目においては、カジノ事業の収益から租税、納付金及び元利支払いを除いた金額の約10%に相当する年間150億円程度を想定しており、その用途は、施設の整備費や維持管理費に留まらず、開業後にIR施設で提供するコンテンツの更新等や、ギャンブル等依存症対策等に充てられる計画となっていることから、カジノ収益の公益還元の観点から前向きに検討されていることがうかがえる。</li> <li>中長期的に、カジノ事業とそれ以外の事業に関しどのような投資計画か、またカジノ事業の収益をどのように公益還元する方針か、考え方を確認したい。その際、施設開業後、一定期間が経過し、維持管理費の金額が増えてきた場合においても、カジノ事業の収益の活用内容として、長期的に世界中の観光客を引き付けることのできる取組が可能であるか、確認したい。</li> </ul>